

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
A : 十分達成できている
B : おおむね達成できている
C : やや不十分である
D : 不十分である

学校名	唐津市立納所小学校
------------	------------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が、年度当初に設定した学力アクションプランの成果目標を達成しと自己申告できた。PW→GW→CWを意識した授業を行っており、タブレット端末の利用もさらに推進されてきた。昨年度基礎学力の定着が課題に挙がっていたので、年度当初朝の時間の工夫としてチャレンジタイムを設けた。その結果、県の学習状況調査では、4年生の算数の知識・理解面が伸び、5・6年生も平均より高かった。今後も継続して取り組んでいくようにしている。 学校では、毎月「なかよしアンケート」をとったり、生活指導協議会で気になる子の情報を共有したりして、共通理解をして気になることがあればすぐに対応して保護者にも連絡しているが、アンケートの結果から、保護者は少し垣根があるように感じてもらえることが分かった。次年度は、相談しやすい学校を目指して取り組んでいきたいと思う。 望ましい食生活の実施という面では、児童の啓発だけでなく、保護者への啓発の方法も考えていく必要があると感じるが、家庭によっては、難しい面もあると思う。まずは、児童への啓発をさらに高め、保護者へ広げていきたい。 担任のこだわりが、勤務時間を延ばしている要因の1つと思われる。児童対応の確保という面では、目的に応じているが、職員の健康面の心配がある。次年度は、定時退勤日の徹底を図ってきたい。
----------------------	---

2 学校教育目標	「納所がすき!」「学校がすき!」と言える子どもの育成
-----------------	-----------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○「心を育む活動」の充実・・・か(感じて考えて)思いやりのある行動づくり ○「主体的に学ぶ力の育成」・・・ぜ(全力で)基本的な生活習慣づくり ○「連携教育」の強化・・・つ(つながって)コミュニケーションづくり ○「自己有用感・肯定感」の向上・・・こ(根気強く)基本的な学習習慣づくり
-------------------	--

4 重点取組内容・成果指標 **5 最終評価**

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	●学力向上対策評価シートに示したマイルドの成果指標を達成した教員を90%以上にする。 ○「勉強がわかるようになった」の質問に対して、肯定的な回答をする児童を80%以上にする。	・教職員間でマイルドを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・授業や朝の時間を活用してのチャレンジタイム、家庭学習を関連させ、前年度の学習内容を含めた基礎基本の定着を図る。	B	・今年度は学力向上対策評価シートにマイルドはないため、全体での取り組みを校内研修で話し合い、全体での共通理解を図り、取り組んでいる。 ・朝のチャレンジタイムの取組により、5年の学力調査での国算の基礎基本の定着が見られた。	A	・学力対策評価シートでの共通理解を基に、朝のチャレンジタイムでのITによる復習、家庭学習の自主学習の取組、長期休暇でのタブレット端末の活用等により基礎学力の定着が見られた。 ・児童の「勉強が分かるようになった」の質問に対して、肯定的な回答をした児童が98%であった。	A		・基礎基本の定着のためのチャレンジタイムの取組は良い。 ・6年生の国語・算数が全国や県よりも高いことが分かった。学校側の指導を高く評価したい。
		●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分から進んでの「あいさつ」や丁寧な「言葉づかい」ができる児童を80%以上にする。	・「あいさつ運動」を実施したり、「言葉づかい」について考える授業を行った。児童向けと実践化を図る。 ・どの学年も道徳の時間に「県版人権教材」を取り扱い、人権についての意識を高める手立ての1つとする。	B	・代表委員会の話し合いで「あいさつ運動」を実施することになり、あいさつをした人数によって「あいさつの木」に数種類のシールを貼る自己評価をさせ、意識を高めることができた。	A	・自分から進んで挨拶することができた児童の割合が95%であった。しかし、元来よく挨拶や地域の方に進んで挨拶する児童は少ない。 ・ふれあい道徳の時間を設け、保護者と一緒に思いやりや倫理観などの授業を行った。 ・「県版人権教材」を全学年で取扱い人権についての意識を高めた。	A	・いつ学校を訪問しても元氣よく立ち止まって挨拶してくれて、嬉しく思っている。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者 生活部
●心の教育	●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめについて組織的対応ができていると回答した教員90%以上にする。	・毎月なかよしアンケートを実施する。生活指導協議会では、気にかけておきたい児童への支援の在り方について話し合い、全職員で対応していく。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。	B	・生活指導協議会では、気にかけておきたい児童に関して、情報をもつ職員が今までの状況、手立て等を積極的に発言することで、全職員で共通理解し、早期解決に向けて効果的な対応の仕方を考えることができた。	A	・なかよしアンケートを通して、生活指導協議会や職員会議等で、気にかけておきたい児童、友達同士のトラブル等の情報、状況、手立て等を全職員で共通理解し、早期解決することができた。 ・各学年においても友達との大切な学び活動を取り入れたい、お互いの良い所を褒めあつたりする活動を積極的に取り入れることができた。	A	・友達を大事にしている点は、子ども達の行動や言動からも分かる。 ・アンケートのみではなく、先生方の目が行き届いていたと思う。	生徒指導主事
		●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生や友達からほめられることがある」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童80%以上	・各クラスでは帰りの会の「今日のきらり」等の時間で、全校では児童朝会の折に、感想交流の場を設けお互いの良さや頑張りを認め合う機会をつくる。 ・キャリアパスポートの記入やキャリア教育の時間を教育課程に組み込む。	B	・どのクラスも、帰りの会ではお互いの良さや頑張りを発表し合っている。児童朝会でも、活発な感想交流がされている。 ・キャリアパスポートやキャリア教育については、2学期以降に取り組む予定である。	A	・「先生や友達からほめられることがあると思う」と回答した児童が87%であった。 ・「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童が90%であった。 ・イチゴ農家、助産師の講演、地域の偉人についての学習を行った。	A	・昔は、地域性のせいとか、人前で話すことに抵抗を感じる子どもが多かった。物怖じしない自分の夢や意見を言うようになってきている点が見える。 ・将来の夢をもつ子どもがたくさんいることは良いことだと思う。	教務主任 担任
●健康・体づくり	●健康・体づくり	○特色あるふるさと学習・体験学習の充実	○地域の「ひと・もの・こと」に学ぶ学習を通して、「地域が好きだ」と答える児童を80%以上にする。	・生活科では「肥前町の施設を知る」学習、3年社会で「肥前町の産業や人を知る」学習、総合的な学習の時間には「ふるさと体験学習」を計画的に入れ、児童が郷土に興味関心をもつ授業を実践していく。	B	・2年生活科「肥前地区の町探検」の学習・3年社会「肥前町の産業」の学習。後期には総合学習「ふるさと学習」や肥前中校区小学校での町探検は計画している。	A	・後期では2年生活科「町探検」、3年社会・総合「地域の産業・名所・偉人の学習」、4年総合「イチゴ栽培」等を行った。納所が好きな児童が97%であった。	A	・学校の教育目標にある「納所がすき」その通りになっていると思う。 ・地域のことを知る事は良いこと。自分も子どもから教えてもらった。	教務主任 各担任
		●望ましい生活習慣と自己管理能力の育成	●メディアのルールについて家庭での約束が守られている児童を80パーセント以上にする。	・生活チェックを年5回実施し、その結果をもとに、学級活動や保健の時間に「生活習慣の大切さ」を伝える授業や講話を実施する。特にメディアコントロールについて取り組む。	B	・生活チェックを実施し、家庭でのルール、使い方、使用時間を調査した。子供たちの実態状況を把握し、気になることがある場合は個別指導を行った。	B	・メディアのルールとして児童アンケートでは、約80%の児童が守れていると答えていたが、保護者アンケートでは、守れていると答えた方が60%いなかった。そのため、児童と保護者との認識の違いがある事を知ることができたため、今後も懇談会や学級通信により呼びかけをしていく必要がある。	B	・子どもと親の認識の違いがあるので、各家庭でのルールをしっかりと決め、自己管理ができるようにしつけていくべきである。 ・今後更に難しい問題になってくれば、学校側からも呼びかけを続けてほしい。	保健部 各担任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○体力づくりにつながる運動遊びの奨励	○学校で多様な運動遊びを楽しむ児童を80%以上にする。	・県スポーツチャレンジの種目や運動遊びを紹介し、多様な運動に親しませる。 ・児童会活動(健康委員会)を通して、雨天時の室内での体力づくりの例なども紹介し、運動を奨励していく。	B	・雨天時には室内でできる運動遊びとして、健康委員会を中心に「筋肉体操」を行った。多くの学年が参加し、楽しみながら活動を行う事ができた。また、健康エスタ(高速足踏み、片足立ち等)を行い、健康や体力づくりにつながる取り組みを行った。	A	・全校児童の80%近くが、朝や昼休みなど、運動場で元気に遊ぶことができた。また12月に持久走大会を実施し、11月からの1か月間、身体みのほとんどの児童が練習に参加していた。また、県スポーツチャレンジの長縄でもほぼ全ての学年が実施することができた。	A	・近年はゲーム等で室内遊びが増えているので、学校では外で遊んでほしい。 ・夕方運動場や道路で走っている姿を見かける。体力づくりは効果的だと思う。	保健部
		●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○毎週金曜日の定時退勤日を守る職員を100%にする。	・定時退勤日を週に1日設定し、確実に取り組むよう、呼びかけていく。 ・見直しをもって早くから取り組むなど、タイムマネジメントの意識化を図る。 ・学年毎で使用データの共有化を図る。	B	・2学期からは、平日6時半目撃運動が浸透してきた。また、それ以外の日にも、遅くまで残ることがなくなった。 ・どの職員も締切日を意識しており、タイムマネジメントの意識化が進んできた。	B	・2学期からは、平日6時半目撃運動が浸透してきた。また、定時退勤推進日には、全員が5時半まで退勤している。しかし、全員時間外勤務月平均45時間以内というのはなかなか難しい。 ・業務の計画的な取組を意識するようになり、職員のタイムマネジメント力が高まってきた。	A	・忙しい中にも、学習と生活指導に努力されている。業務が大変かとは思いますが、定時に帰ることができるよう意識してほしいと思う。	管理職 各担任

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
○一人一台端末の活用	○閉校・3校統合に向けた取組	○タブレット端末の活用	○タブレット端末を使って学力向上に取り組んだ教員を100%にする。	・校内研究に、タブレット端末を用いた授業を1本の柱に据え、教育情報化推進リーダーとICT支援員を中心に研究の推進を図る。 ・タブレット端末を使用した授業を計画・実施して、協働学習や個別最適な学びを目指した活用を図る。	B	・校内研究では、代表者がジグザグを用いた授業を行った。事後研究会では、活発な意見交換が行われ、情報機器を用いた学習について職員間の知識が深まった。 ・各担任が機会あるごとにタブレット端末を利用した授業を行った。また、夏季休業中は、ドリルパークの課題を出し、持ち帰らせて学習に利用した。	A	・校内研究では、昨年の実績を引き継ぎ、新しいツールを用いたり、タブレット端末を用いた授業を行った。事後研究会を通して職員の理解が深まった。 ・各学年の発達段階に応じて、授業の中でタブレット端末を利用した授業を行った。 ・3校の児童も活用し、どの学年も楽しく交流を行っている。不安や恐れを抱く声は聞かれない。	A		・タブレット端末を使う授業は、子ども達も楽しく取り組んでいると思う。先生方の指導で、使いこなしているのではないかと感じる。
		○閉校に向けた取組と統合に向けた3校交流の推進	○閉校に向けた取組を確実に実行する。 ○統合に向けて不安がないと思う児童を90%以上にする。	・閉校準備会等で話し合った内容を育友会と職員に周知し、最終の閉校式が成功するよう取り組んでいく。 ・3校の職員が話し合いを綿密に行い、交流事業を通して児童同士が楽しく触れ合うことで、統合への不安をなくしていく。	A	・閉校記念誌や閉校式の準備等、育友会と協力しながら計画的に取り組んでいる。また、3校の保護者部会を開催して、閉校に向けて進めている。 ・交流授業やバス旅行等を通して、3校の児童が楽しく交流できている。	A	・閉校記念誌や閉校式の準備の両方とも、学校・保護者・地域ともに協力しながら、順調に進めることができた。無事に閉校・統合を迎えることができた。 ・3校の児童も交流も順調で、どの学年も楽しく交流を行っている。不安や恐れを抱く声は聞かれない。	A	・物怖じせず、楽しく交流ができていると聞いた。伝統を忘れず、肥前小学校でも頑張ってもらいたい。 ・人数が増えるので、良い意味で刺激され、張り合いがでけると感じる。	管理職 教務 各担任

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に設定した学力対策評価の共通理解をもとに、PW→GW→CWを意識した授業を行っており、タブレット端末の利用もさらに推進されてきた。昨年度から取り組んできた朝の時間のチャレンジタイムにより、基礎的な力がついてきたことが実感できる。今後、統合して人数が増えるので競争力が芽生えることを期待している。 学校では、毎月「なかよしアンケート」をとったり、生活指導協議会で気になる子の情報を共有したりして、共通理解をしてきた。気になることがあればすぐに対応して保護者にも連絡し、こじれたり、大事になる前の早期の対応を心掛けた。 少人数ということで、一人一人に目が行き届きやすい環境があるおかげで、児童の自己肯定感が高い。また、地域の特色あるふるさと学習や体験学習、キャリア学習の成果もあり、将来への夢や希望をもっている児童が多いことが分かった。統合により、更に切磋琢磨して成長して欲しい。 今年度は特に、メディアのルール遵守を意識して生活チェックを行った。児童と保護者の認識の違いがあることが分かったが、学校側からは呼びかけを続けていくことが必要だと思う。 呼びかけている時刻での退勤や定時退勤ができるようになり、業務改善の動きや教職員の意識は、進んできていると感じる。 令和6年度の肥前小学校開校に向けて、閉校の準備と統合の準備を計画的に行ってきた。統合への不安や恐れを抱く子がおらずに安心して過ごしているところである。保護者や地域の協力のもと、無事に閉校記念誌が完成した。閉校式も滞りなく行えた。納所の児童のこれからの成長を願っている。
-----------------------	---